

お日様と風

やよひ生

或る冬の朝、お日様と風とが、どちらかが、ゑらいかと言つて、やかましく、喧嘩をして居りました。丁度、其の時、暖かそうな大きな外套を着た一人の旅人が通りかゝりましたから、二人は相談をして、彼の旅人の外套を脱がしたものが、一番ゑらいものにしようといふことになりました。そこで、風は、一生懸命になつて吹き出しました。すると、旅人は、驚いて、外套の前を押さへて、中腰になつて駆け出したから「之では行かぬ」と思つて、風は躍氣となつて、ある限りの力を出して、ピユ〜と烈しく、吹きましたが、旅人はますます驚いて、愈々緊しく押さへたものですから

どうしても外套を脱がすことが出来ません。風はさも、口惜しさうにして、額の汗を拭いて居りました、お日様は、是れを見て、笑ひながら、「風さん〜一寸私のするところを御覽なさいよ」と言ひながら、急に、強く、照り出しましたから、だん〜暖かく、又おひ〜に、熱くなつて來ました。すると、旅人は「おや〜、風がやんだと思つたら、急に暖くなつて來た、……ア、又馬鹿に暑くなつて來たもんだ」といひながら、とう〜、其の外套を脱いで仕舞ました、おまけに暑くて、堪まらなくなつたと見えて、路傍の小川に下りて行つて、赤裸となつて、水を浴び始めました、風は、始終黙つて、此の様子を見て居ました、成程と感心して、お日様の前に手をついて、とう〜、恐入たそうです。